



とがみ

「やさしく かしく たくましく」

山形市立滝山小学校

学校だより 第2号

令和8年6月26日

スローガン『主役・協力 ベストをつくせ!』 大運動会を開催!!

正々堂々、真剣勝負!!赤組『邁進』(優勝)、白組『白力合勝』(応援賞)

今年度の運動会は、5月12・13日に徒競走の部、5月25日に団体種目の部が行われました。滝山小学校全員が主役となり、仲間のために力を発揮した、迫力ある大運動会でした。保護者・地域の皆様から、たくさんの声援をいただき、誠にありがとうございました。



～戦術を考え力の限り戦う姿～



～力を合わせゴールを目指す姿～



～仲間と楽しく競い合う姿～

今年度の運動会でリーダーシップを発揮した児童の言葉や振り返りを紹介します。運動会にかける熱い思いや仲間への大きな期待が感じられます。一人一人の心の成長や挑戦する強い心が表現されています。

運動会 開会式 実行委員長のあいさつ

実行委員長 沼沢 さん

今年度のスローガンは「主役・協力 ベストをつくせ!」です。私は、今まででだれか一人ががんばる運動会ではなく、みんなでがんばって最高の運動会をつくりたい!という思いで準備してきました。運動会は、一人ではつくれません。みんなが協力して力を合わせることで、大きな力が生まれます。みんなで声をかけあえば、いつもの自分より気持ちが強くなりもっとがんばれるはず。これまで運動会に向けて、応援団の皆さんは、声がかかるまで、大きな声を出して全校生をリードしてくれました。各係活動では、全校生のことを考えながら準備を進めてくれた人、見えないところで運動会を盛り上げようとがんばってくれた人がたくさんいました。そんなみなさんのがんばりがあったからこそ、今日はこの運動会を迎えることができました。今日は、今までの努力を発揮する時です。今、緊張している人や楽しみにしている人もいますが、最後まであきらめずに自分の力を出し切りましょう。6年生の皆さん、私たちにとっては小学校最後の運動会です。自分の力を一杯出してくいのない運動会にしましょう!全校の皆さん、みんなが主役でみんなで協力し合う、今日は、そんな運動会を一緒につくっていきましょう!

運動会 閉会式 実行委員のあいさつ

実行委員 高橋 さん

実行委員では、今年度の運動会のスローガンを「主役・協力 ベストをつくせ!」と決めました。運動会が始まり、皆さんのがんばる姿を見て、このスローガンにしてよかったと思える場面がたくさんありました。全校種目では、赤組は、力いっぱい転がし、協力していました。白組は、相手に負けないように声を掛け合い協力していました。6年生の僕にとっては、今回が小学校最後の運動会でした。今までのどの運動会よりも「勝ちたい」と思うようになりました。特に、騎馬戦では、勝つために仲間と声を掛け合い、戦いました。その結果、仲間と協力することで、できることが増えることを改めて感じました。

今年度の運動会を通して、僕は2つの立場から大切な気持ちを知ることができました。1つ目は、騎馬として騎手を支えたとき、騎手を支える人を欠かしては戦えない、ということを感じ、支える側の気持ちを知ることができました。2つ目は、実行委員として全校生を引っ張る立場になったとき、責任が大きく、プレッシャーを感じました。しかし、力を貸してもらったことによって、仲間のありがたさを感じ、引っ張る側の気持ちを知ることができました。この経験によって「それぞれがちがう立場で頑張るから運動会は成功する」ということがわかりました。これからの学校生活でも、色々な立場になる場面があると思います。運動会で感じた協力の大切さを忘れずに、支え合いながら前に進んでいきましょう。これで令和8年度滝山小大運動会を終わります。

裏面あります。



動きを工夫し、そろえようと頑張った白組応援団

赤組組頭 佐藤 さん

赤組組頭として、みんなが全力を出せるような運動会ができるように、その土台を自分がつくっていきたくてめあてを立てました。そのためには、応援練習ではだれよりも声を出して自分がお手本になるようになりたいと考えました。特に、返事は大事だと思い、自分で一番力を入れました。自分から大きな声で返事をしていくうちに、他の人も自然と返事の声が大きくなっていくようになり、僕が声がけをすると返事をして反応してくれるようになりました。徐々に勝利に向かって赤組が一丸となっていることを感じました。1～6年生には、次の活動に取り組む時に本番まで全力で取り組めたことも思い出して一人一人が自信を持って取り組んでほしいです。

白組組頭 小野寺 さん

結果は、負けてしまったけど、組頭としてしっかり声をかけたり、1つ1つの行動を素早くさせたりして、ベストを出せたと思う。競技は、騎馬戦で圧倒的に負けてしまったことが、なぜかわからなかった。作戦がだめだったのか、赤組が強かったのか、調子が悪かったのか、練習で勝っていたので、すごく悔しかった。応援はすごくよかったと思った。練習でやったことや伝えたことをしっかりできていた。声も出ていたし、まとまりが一番よかったと思う。ぼくは、組頭として、大勢に考えを伝える難しさを学んだ。白組一人一人に考えを伝えるためには、応援団の中で考えを共有しないといけない。これからの学校生活でも、つけた力をいかしていきたい。

大きな声をついに合わせようと頑張った赤組応援団



白組応援団長 山本 さん

ぼくが考える今年最後の運動会や活動で良かったところは、最後まであきらめず、くいものこらないように全力で競技や応援ができたことです。最初は、団長になったけど、何をやればいいかわからず、組頭に少しはよってしまいました。しかし、回を重ねるごとに、一人で考えることができ、最初よりもっと最後まで組のみんなをひっぱっていくことができました。

一方、悪かったところは、最初から本気を出せなかったことです。この場面は少し本番にひびいてしまったと思います。でも、くいものをこさず、最後の運動会を団長としてやってよかったなと思います。

今年の運動会で経験したことは、これからの生活でもいかせそうと思うので、陸上記録会の練習や委員会活動の打合せをしっかりやりたいです。

赤組応援団長 鈴木 さん

ぼくは、運動会の応援団長を通して、全体に声をかける力が前よりもついたと思います。委員会の時に、友達が委員長として、スムーズに会を進める姿を見て、自分もリードすることができるようになりたいと思い、力を発揮できるのは運動会だと思い、応援団に立候補しました。応援団長になって最初は、みんなが大きな声を出してくれるにはどうしたらよいか苦労しました。でも、応援団から大きな声を出せば、みんなの刺激となって声を出してくれるのを信じて毎回全力で参加しました。

おかげで、赤組みんなが大きく声を出してくれました。その変化は、ぼくにとってとてもうれしいことだと思いました。運動会では、勝ち負けだけではなく、自分に多くの人をまとめる力がつきました。小学校最後の最高の運動会になりました。

運動会への取り組みで高まった子どもたちの粘り強さや自己調整力は、普段の学習や集団での活動に活かされています。子どもたちのますますの成長を心から期待しています。